

撮り鉄たちの『プラットホーム』 -SLを待つ、シャッターチャンスを待つ、友を待つ-

鉄道ファンの現状

鉄道趣味は古くからあり、子供たちから年配者まで年齢を超えて広がっています。
近年では欧米や中国などの海外からのファンも増加傾向にあります。

この鉄道を撮影している鉄道ファン達を“撮り鉄”と呼ばれています。

鉄道写真のコンテストも数多く開催されており、大きなものから地方開催、各写真スポット、最近ではSNS投稿での参加などがあり、とても賑わいのある人気の趣味となっています。

一方で、良い写真を撮りたいために列車通過の数時間も前から多くの人が待機し交通の迷惑になることや、立ち入り禁止の場に足を踏み入れ、事故にあう人も少なくありません。
これらの問題を解決することによって、多くの鉄道ファンたちがSLを楽しみ撮影することが必要と思われます。
今回の提案によって撮り鉄たちだけでなく、地域の発展や自然景観保護に貢献できることを期待しています。



アルプス周辺の線路沿いの風景



真岡線を走るSLを撮影する撮り鉄

海外の事例

アルプスの麓の線路沿いでは、自分たちで席を確保しお酒をたしなみながら、優雅な時間を過ごしています。
海外では土地が広く、人々は横に広がりどの場所からでも同じ写真を鉄道と風景を写真におさめることが出来ます。
一方日本では、一般の方が足を踏み入れることは出来ない土地が多く最高の風景を逃している人が多くいると思います。
海外のように横に広く土地を作ることが出来れば安全に鉄道を撮ることが出来るのでは・・・



現在見られるSLもおか C1266

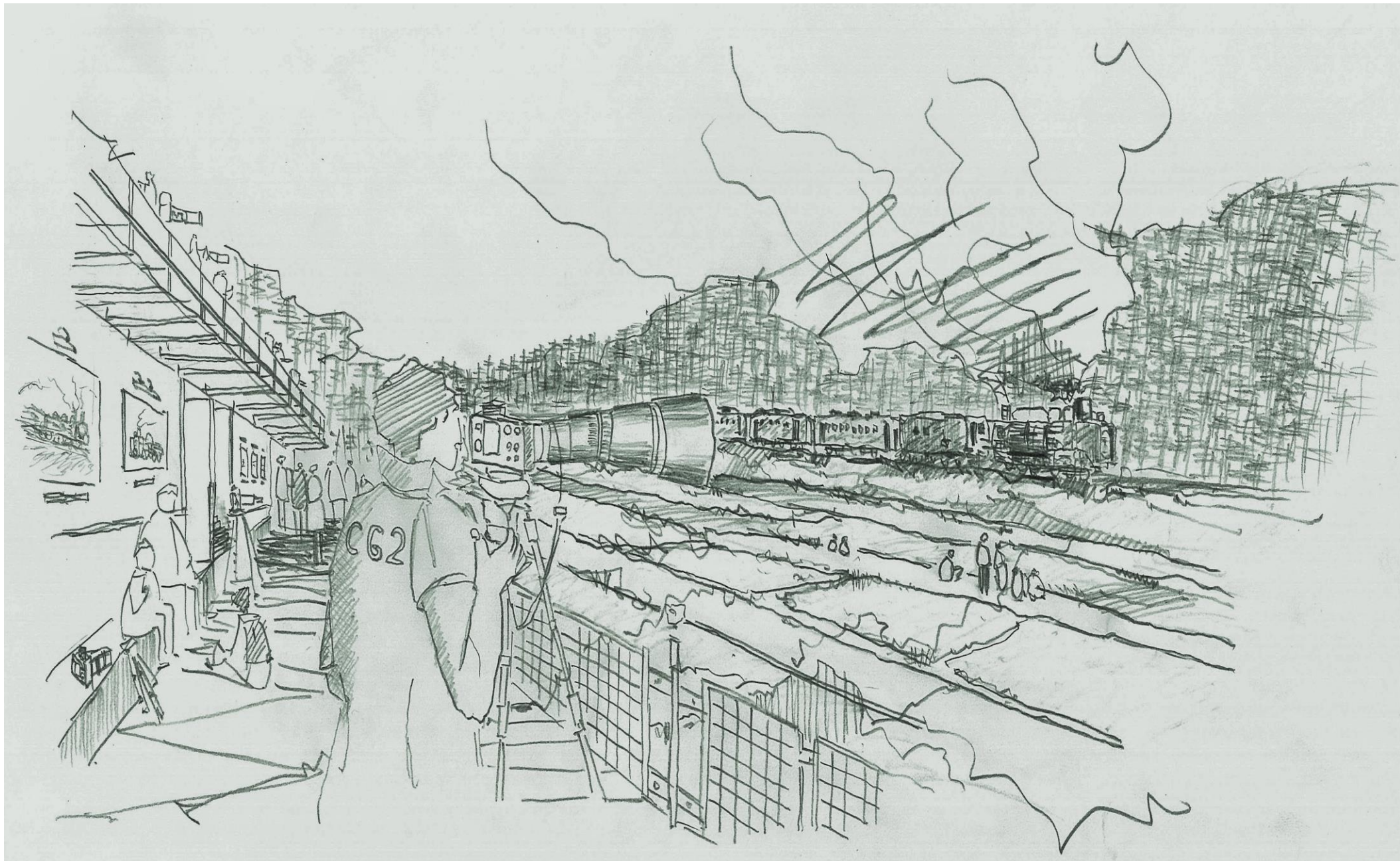
撮り鉄 5 大マナー

1. 持ってきたゴミは持って帰る。
2. 他の人の撮影に邪魔にならないように、線路に近づきすぎない。
3. 勝手に民家や田畑に侵入しない。
4. できるだけ公共交通機関を利用し、自家用車を利用する場合は遠くても駐車場を利用する。
5. 他の撮影者の邪魔にならないようにし、特に三脚を使う場合には気を遣うこと。

計画の土地と目的

市塙駅と笹原田駅の中間地点
背景に森があり鉄道と緑の木々がうまく調和する場です。
この場に撮り鉄たち専用のプラットホームを計画しました。

現状の問題は「待つ」にあります。
撮影の場所取りから鉄道の通過まで長い時間がかかります。
この時間を豊かに出来るよう考えました。
・鉄道の通過時間より早く来るファンに駐車場、ベンチ、カフェ、イベントなどを設け個々で豊かに過ごせるようにする。
・プラットホームのどこからでも良い写真が撮れるようにする。
・撮り鉄の迷惑行為である、田んぼ等の不法侵入、ポイ捨て、線路脇接近などの行為を抑制する。

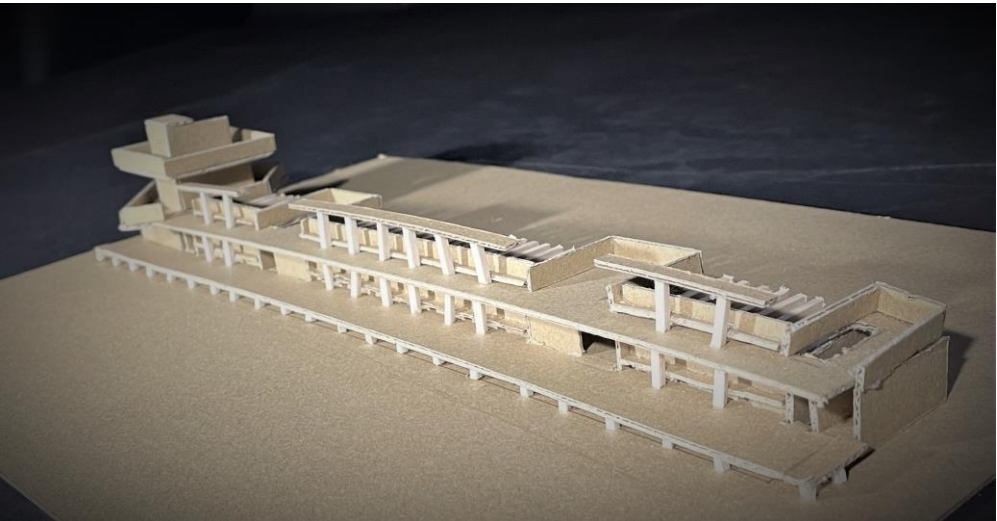


展望塔下一階デッキスペースから見たスケッチ

設計ポイント

1. 建物全体は線路と水平に横長とし、どこから撮影しても良い写真が撮れるようにした。
2. 一階のデッキだけでなく高いアングルから狙えるように二階および展望デッキを計画
3. 近隣に迷惑をかけないように、駐車場およびバイク置き場を併設
4. 雨天時も撮影が出来るように、庇やビロティ空間を設置
5. 会員のたまり場としてサロン空間を設け、自慢の作品を展示したり、自販機やトイレで待ち時間が退屈出ないようにした。

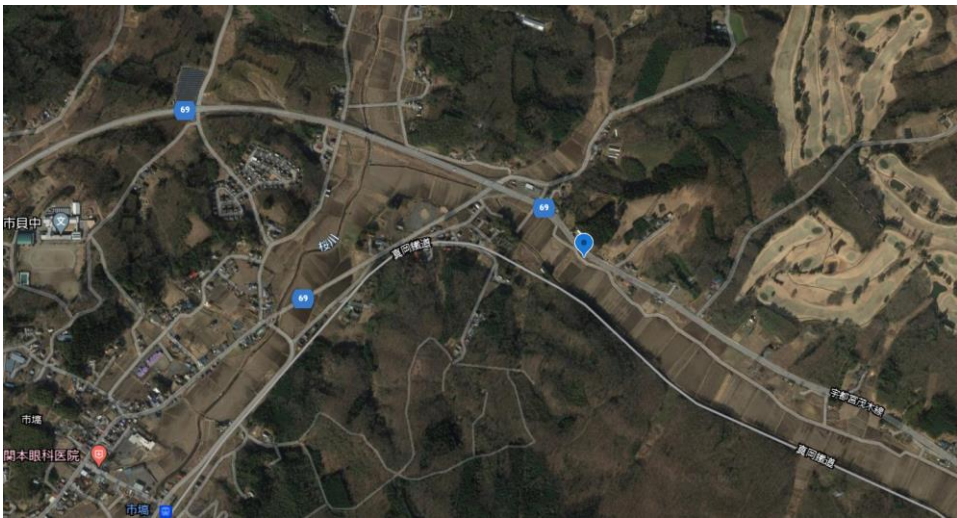
この施設をきっかけにより多くの鉄道ファンが集まり、地域の活性化と鉄道運営への貢献が出来ることを期待したい。



プラットホーム側からのビュー



駐車場側からのビュー



計画地と周辺の状況